

「絆は連綿と・・・」

### 23C 田中（平田）優子

卒業後すぐに実家が東京に移り、就職先の茨城で結婚し佐世保のことは遙か遠く、思い出すことも少なくなってきた私ですが、その私が生まれ育った佐世保の事を懐かしく思い出し、人生を振り返るきっかけになったのが東日本大震災でした。

立っていることも動くことも出来なかったほどの揺れ、ライフライン、交通もすべて一瞬にして止まり頭の中は家族の安否だけ。日付が変わる頃やっと家族と会うことができた時、私は生きてるんだと何の感情も沸かない不思議な感覚でそう感じた事を思い出します。

1 か月程経ち、ライフライン、交通も復旧し、家族もまた職場や学校に戻り何とか日常を取り戻した頃、夜に電話がありました。夫が出て「フジムラさんから」と私に代わりました。フジムラと言われても全く見当が付きませんでした。受話器の向こうから「平田、大丈夫か？家族はみんな無事なのか？」その声を聞いた瞬間に「藤村先生！」と叫んでいました。二十数年ぶりに聞く声はすぐに藤村顕世先生だと分かりました。藤村先生は私が在学中に所属していた硬式テニス部の顧問の先生で、学科は機械と化学で違いましたが、部活だけは真面目に取り組んでいた私には、5年間を通してお世話になりたくさんの時間と話題を共有した先生のおひとりでした。受話器を置いた後もただただ感動で胸の震え、涙が止まりませんでした。

卒業してからは年賀状だけの不義理な教え子の私の事を気に掛けて下さった事、そろそろ落ち着いた頃かと気を遣って連絡を下さった事、その藤村先生のお気持ちが本当に嬉しかったのです。

先生と話した後、フラッシュバックのように佐世保の事、高専時代の事、何日も何日も懐かしく思い出していました。

当時はそれが普通だと何も思わなかった学生時代ですが、今は私の故郷は佐世保であること佐世保高専の卒業生であることを誇りに思います。そして私に関わって下さった全ての方々に感謝の気持ちとお礼をこの場を借りてお伝えしたいと思います。卒業生、在校生、先生方や皆様のご家族が、平和で穏やかな日常を過ごされることを心より祈念しております。